

千葉市感染症発生動向調査情報

2013年 第10週 (3/4-3/10) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		10週	9週	8週	7週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	4	4	4	4
	インフルエンザ*	27	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千		葉		市		千葉県
		注意報	3/4-3/10	2/25-3/3	2/18-2/24	2/11-2/17	2/25-3/3	
			10週	9週	8週	7週	9週	
小 児 科	RSウイルス感染症		3 0.17	2 0.11	2 0.11	3 0.17	21 0.16	
	咽頭結膜熱		2 0.11	1 0.06	0 0.00	0 0.00	37 0.27	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		50 2.78	72 4.00	72 4.00	31 1.72	455 3.37	
	感染性胃腸炎	○	163 9.06	141 7.83	122 6.78	99 5.50	1,283 9.50	
	水痘		18 1.00	12 0.67	24 1.33	14 0.78	136 1.01	
	手足口病		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	6 0.04	
	伝染性紅斑		0 0.00	0 0.00	2 0.11	0 0.00	8 0.06	
	突発性発しん		6 0.33	12 0.67	9 0.50	12 0.67	65 0.48	
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.01	
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	流行性耳下腺炎		1 0.06	3 0.17	2 0.11	3 0.17	41 0.30	
	インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		151 5.59	206 7.36	196 7.00	257 9.18	1,662 7.73
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	流行性角結膜炎		3 0.75	0 0.00	0 0.00	2 0.50	10 0.30	
基 幹 定 点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	4 0.44	
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11	
	マイコプラズマ肺炎		2 2.00	1 1.00	2 2.00	2 2.00	6 0.67	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		2 2.00	1 1.00	1 1.00	0 0.00	1 0.11	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(13件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	病原体の検出	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	60歳代	QFT等	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出
結核	男性	80歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	30歳代	血清IgM抗体の検出
アメーバ赤痢	男性	50歳代	病原体の検出	風しん	男性	40歳代	血清IgM抗体の検出
風しん	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	50歳代	血清IgM抗体の検出
風しん	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出	風しん	女性	20歳代	血清IgM抗体の検出
風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子の検出	-	-	-	-

・結核3件(32)、アメーバ赤痢1件(1)、風しん9件(32)の報告があった。

()内は2013年累積件数

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第10週のコメント

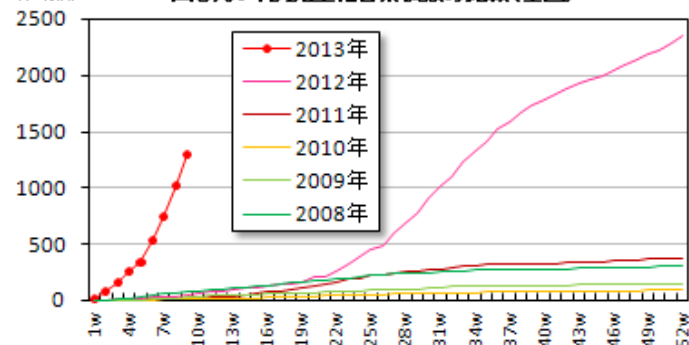
＜感染性胃腸炎＞先週より増加し9.06となった。過去10年の同時期と比較すると例年並み。

トピック

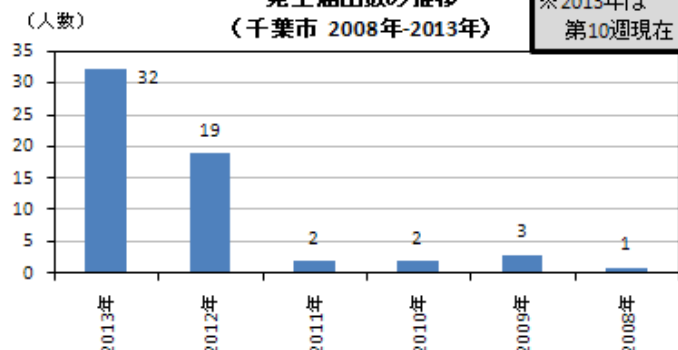
＜風しん＞

平成24年の風しん発生報告数は、過去5年間で最多となり、先天性風しん症候群の報告数が平成16年の10例に次ぐ6例となっています。風しんの増加傾向は数年持続することが知られています。本年も全国レベルの第9週の累積発生数は1303となり、過去5年の同時期と比べて約20倍～90倍と非常に多くなっており、風しんや先天性風しん症候群の増加傾向が持続することが懸念されています。千葉市でも同様に持続的に増加しており、第10週は9件の発生届があり累積報告数は32件となり、平成24年の累積数19件を既に上回っています。32件の患者は殆どが成人で、40歳代が10人、20歳代及び30歳代がそれぞれ9人、50歳代が3人、10歳代が1人で、84.6%が男性となっています。

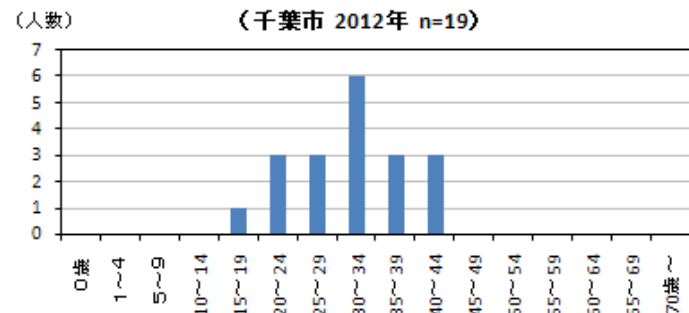
（人数） 風しん：年別発生報告累積数の比較（全国）



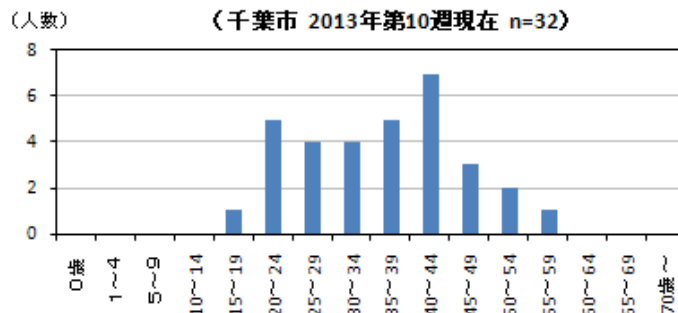
発生届出数の推移
（千葉市 2008年-2013年）



風しん発生件数：年齢階級別
（千葉市 2012年 n=19）



風しん発生件数：年齢階級別
（千葉市 2013年第10週現在 n=32）



先天性風しん症候群とは、免疫のない女性が妊娠初期に風しんにかかることによって、風しんウイルスが胎児に感染して、出生児に起こる障害のことです。日本は10万人当たり1.8～7.7人となっています。三大症状は先天性心疾患、難聴（高度難聴であることが多い）、白内障で、その他、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅滞、精神発達遅滞、小眼球など多岐にわたり、それ自体の治療法はありません。予防で重要なことは、予防接種を受けて十分高い抗体価を保有することで、既に自然感染で免疫を獲得していることが明らかな者以外は風しんワクチンで免疫を付ける必要があります。

先天性風しん症候群の発生予防のため、風しんの定期予防接種対象者（1歳以上2歳未満、5歳以上7歳未満で小学校入学前年度1年間、中学校1年生相当の年齢の方、高校3年生相当の方）は必ず受けるようにしてください。なお、中学校1年生相当の方と高校3年生相当の方については、平成25年3月まで無料で予防接種を受けることができます。

また、妊婦への感染を抑制するため、特に次の方は予防接種を受けることを是非検討して下さいをお願いします。

- ①妊婦（抗体陰性又は低抗体価の者に限る）の夫、子供及びその他の同居家族（妊婦自身は接種不适当のため除く）
- ②10代後半から40代の女性（特に、妊婦希望者又は妊娠する可能性の高い者）
- ③産褥早期の女性（妊娠中の接種は不适当であるため：授乳中でも乳児に影響はない）

【注1】

上記①～③の方で次の場合は除きます。

- ①明らかに風しんにかかったことがある。
- ②予防接種を受けたことがある。
- ③抗体陰性又は低抗体価ではないことが明らかに確認できている。

【注2】

妊娠している方の抗体価の確認については、産婦人科に相談してください。

【注3】

万一、妊娠している方が風しんにかかっても、必ず胎児が先天性風しん症候群になるわけではありません。妊娠している方で風しんにかかった可能性がある、又は風しん患者が近くにいた可能性がある場合は、産婦人科に相談してください。

＜麻しん・風しん予防接種について：千葉市保健所 感染症対策課＞

<http://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/kenkou/hokenjo/kansensho/masin-fusinyoboseshu-kaisei.html>

＜感染性胃腸炎＞

2013年の全国レベル第9週現在、過去5年間の同時期と比べてやや多めとなっています。都道府県別では、熊本県、宮崎県、福井県の順で発生が多く見られます。千葉県は全国レベルとほぼ同等程度となっています。千葉市では第4週から連続して増加しており、第10週は前週より増加し9.06となり過去10年の同時期と比較するとほぼ例年並みとなりました。区別の発生状況は、稲毛区で最も多く、同区の1歳、3歳及び4歳で多く発生しています。

感染性胃腸炎の原因はサルモネラなどの細菌によるもの、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるもの、クリプトスポリジウムや赤痢アメーバなどの原虫によるものがありますが、冬期の感染性胃腸炎の多くはウイルスによるものです。ウイルスによる流行期は12月頃から3月にかけてであり、例年では年末にノロウイルスによる大きなピークを形成し、早春にはロタウイルスによる流行がみられます。

感染者の糞便や吐物には大量のウイルスが排泄され、またウイルスが乾燥して空中に漂い経口感染することもあるので、汚物や便は乾燥しないうちに処理しましょう。汚物が付着した床等は、手袋を使用し、次亜塩素酸ナトリウム液（塩素濃度約0.1%）で浸すように拭き取り、使用したペーパータオル等はビニール袋などに密封して廃棄しましょう。

